

■国際戦略の概要

目的

人口減少時代の到来を迎え、国内需要が縮小する中で、海外との交流を通じて海外から活力を取りこみ、誰もが能力を発揮する多文化社会を実現することにより、地域活性化と持続可能な都市の発展を目指す。

「札幌市国際化推進プラン」の改訂

平成 14 年に策定した「札幌市国際化推進プラン」においては、「グローバル・パートナーシップが魅力と活力を生み出す世界都市さっぽろ」を理念に、「交流」－「創造」－「発信」の好循環によるまちづくりを目指してきた。海外との交流が質・量ともに高まった現在、より一体的かつ効果的に国際施策を実施することが求められる。

役割と位置付け

「札幌市国際化推進プラン」を抜本的に見直し、国際施策を市民や企業と一体となって推進するための統一的かつ戦略的な計画として策定。また、平成 25 年度より長期総合計画に代わる札幌市全体のまちづくりの方針である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を上位計画とし、同ビジョンの目指す都市像の実現を目指す。

プランが重視するポイント

○海外の成長を取り込む交流の推進 ○多文化共生社会の実現 ○互恵的な国際協力の推進

計画期間

計画期間は 10 年とする。ただし、計画期間を超える課題についても対象とする。具体的な施策については、計画期間 5 年のアクションプランで、施策の柔軟な見直しや検討を行う。

■札幌をとりまく社会経済情勢と課題

グローバル化の進展

情報技術の革新や国際航空ネットワークの発達など、グローバル化の動きがさらに進行しており、地域へ与える影響が大きくなっている。

人口減少・超高齢社会の到来

札幌の人口は減少する見込みであり、少子高齢化により生産年齢人口も減少している。都市の活力を維持していくための取り組みが必要。

成長するアジアと地域間競争

引き続きアジアが世界経済を牽引していく中で、観光、留学、投資、企業立地などの「行き先」をめぐる地域間競争が激しさを増している。

海外からの観光客の増加

札幌への海外からの観光客は、過去 10 年で大幅に増加。東南アジア諸国などの経済成長にともない、今後も増加が期待されている。

外国籍市民の増加と多文化共生

札幌でも外国籍市民は着実に増加を続けており、外国籍市民が快適に暮らし、地域社会の一員としてともにまちづくりを行うための環境づくりが必要。

地球的課題と持続可能な社会の実現

地球的規模の課題への取り組みなど、次世代の利益を損なわない「持続可能な社会」の実現が、国際的な共通理念として認知されている。

東日本大震災後の社会

原発事故の発生によって、これまでの産業のあり方やライフスタイルに対する価値観が変化し、環境・エネルギー問題への関心が高まっている。

■理念と構成

「まちづくり戦略ビジョン」の 2 つの都市像の実現に向け、国際戦略では 3 つの基本方針を設定し、取り組みを進める。

基本方針Ⅰは海外の成長を取り込み経済の活性化を図る視点、Ⅱは誰もが能力を発揮できる多文化共生社会を実現する視点であり、これらを両輪としつつ、Ⅲでは双方につながる互恵的な国際協力を推進して持続可能な社会の発展に向けた取組を進める視点を加え、国際戦略を推進し、札幌市が目指す都市像を実現する。

まちづくり戦略ビジョン

北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち

互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

国際戦略プラン

基本方針Ⅰ 札幌の魅力発信と海外の成長を取り込む交流の推進

ⅠとⅡが国際戦略の両輪となり、国際戦略の推進を牽引する。

基本方針Ⅱ 多様性と創造性を支える多文化共生社会の実現



Ⅲにより、世界に貢献するとともに、将来の多様な交流につながるネットワーク構築等を行う。



基本方針Ⅲ 持続可能な社会の実現に向けた互恵的な国際協力

アクションプラン

■基本方針

基本方針Ⅰ 札幌の魅力発信と海外の成長を取り込む交流の推進

人口減少時代を迎える札幌の都市の活力を維持していくために、札幌の魅力を発信し、今後引き続き世界経済を牽引すると見込まれるアジアの成長を取り込む取り組みを進める。

基本方針Ⅱ 多様性と創造性を支える多文化共生社会の実現

外国籍市民をはじめとする多様な文化的背景を持つ人々が、それぞれの能力を発揮してまちづくりに参加することにより、多様性と創造性を高め、活発な地域を生み出すの基盤を形成する。

基本方針Ⅲ 持続可能な社会の実現に向けた互恵的な国際協力

平和、人権、環境などの地球的課題を踏まえ、将来の多様な交流につながる互恵的な国際協力をを行い、世界での札幌の役割を果たしてプレゼンスを高めるとともに、持続可能な社会の実現を目指す。

■戦略推進の考え方

連携の推進

市民・大学・企業・自治体・国際関係機関等、国際的な活動を行う様々な主体との連携を強化し、施策実施の相乗効果を大きくする。

海外ネットワークの活用・拡充

積極的に海外との関係を構築し、施策に活かしていくため、柔軟に新たなネットワークを構築し拡充するとともに、既存のネットワークの時代やニーズに応じた活用を図る。

ターゲット地域を明確にした施策展開

取組分野ごとに、ターゲット地域の文化的特色やこれまでの交流の蓄積を踏まえ、より効果的な交流の推進を行う。

- ★東・東南アジア：観光や経済活動の市場として、各国の特色やニーズに合った事業展開を行う。
- ★ヨーロッパ・アメリカ：少子高齢化への対応や創造都市の取り組みなど、札幌が抱える課題へのヒントや市民参加などの施策を取り入れる。
- ★ロシア・モンゴル等：札幌の地理的特性を活かした経済連携や環境対策に向けて、関係強化を図る。

■推進体制

市民、大学、企業・経済団体、北海道・道内自治体、国際関係機関等、多様な主体がそれぞれの役割を積極的に果たし、相互に連携した取り組みを進めていく。そのうち、札幌市と国際プラザの役割は次のとおり。
＜札幌市の役割＞

庁内連携の推進／国際感覚豊かな職員の育成／情報収集・調査

＜国際プラザの役割＞

多文化共生の推進／コンベンションの振興／市民活動のコーディネートと国際的な人材育成

■進捗管理

プランを基に、具体的な施策はアクションプランで示すことから、アクションプランに評価指標を設定し、到達度と効果を把握する。プランの検証は、前期及び後期のアクションプランの進捗により行う。

また、庁内及び庁外の会議によって、アクションプランの進捗管理や評価、見直しのほか、国際施策の問題点や課題を検討する。

